③身に付けさせたい力

本県のキャリア教育の目標の達成や「目指す児童生徒」を育成するために、児童生徒に身に付けさせたい力として、次のように設定した。身に付けさせたい力を明確にし、それを意識した教育活動を行うことが重要であるため、各学校においては、キャリア教育の目標や学年の重点目標をより焦点化・具体化すると取り組みやすい。

か　かかわる力

人間関係形成・社会形成能力

- 多様な集団の中で他者とかかわる力
- 進んで考えや気持ちを伝え合う力
- 人や地域を大切に思う気持ちや感謝する心
- 協力する力
- 社会に参画し、社会を積極的に形成する力　など

ふ　ふり返る力

自己理解・自己管理能力

- 行動を振り返り、改善につなげる力
- 自己の役割を理解する力
- 情報・助言を正しく理解し自分を見つめる力
- 自分の良いところを見つめる力　など

や　やりぬく力

課 題 対 応 能 力

- 問題を発見できる力
- 問いを立てる力
- 課題に対応した計画を立案する力
- 計画を実行する力
- 発想（想像）する力
- 間違いや他人との違いをおそれない力
- 最後までねばり強くやり通す力　など

み　みとおす力

キャリアプランニング能力

- 将来を想像する力
- 自分の目標を設定する力
- 目標設定のために計画を立てる力
- 立てた目標を確認し次につなげる力
- 自ら主体的に判断して、キャリアを形成していく力　など

新時代に求められる資質・能力とは

「グローバル化」「人生100年時代」「人口減少」「超少子高齢」「ＡＩ」「ロボット」「気候変動」などのキーワードに代表されるように、これまで、経験したことがない変化の時代を生きていく本県の未来を担う児童生徒たちに求められているのは、どんな力だろう。

- 新しい価値を生み出す豊かな創造性を持ち、未来を創っていくことができる
- 世界を見据えながら、地域と向き合い、地域貢献ができる
- 生涯にわたって学び続けることができる
- 多様な集団の中で、様々な価値観を認めて、自分の意見を相手に伝えることができる
- 失敗してもそこから学び、立ち直ることができる　など

④発達の段階に応じた体系的なキャリア教育

キャリア教育は、幼児期から体系的に発達の段階に応じた取組を行うことが重要である。また、キャリア発達は、個々の児童生徒でそれぞれ異なるため、一人一人のキャリア発達を促すよう、きめ細かく支えていくことが必要となる。そこで、本県の学校、家庭、地域等において、幼児児童生徒の育成がイメージできるよう、各段階における到達イメージを設定した。

＊発達の段階に応じた到達イメージ（沖縄県）

なお、特別支援学校においては、個々の障害の状態に応じたきめ細かい指導・支援の下で、上記の各段階に準じてキャリア教育を推進することとする。

⑤キャリア教育の推進ポイント

各学校でキャリア教育を進めていくにあたって、次の３つのポイントを挙げる。

○ 教科を通じた学び

実践上のポイントは、扱う単元や題材等にキャリア教育的な何かを新たに付け加えるのではなく、単元の内容そのもの、あるいは単元のねらいを達成するための授業展開の中にキャリア教育としての価値が潜んでいる場合に、その価値を見いだし、意識することが重要である。教科を学ぶ意義を明確にしながら、学校の学びと社会とのつながりを意識させよう。

関連ページ　P11 「２.キャリア教育の視点を踏まえた教育課程編成」

○ 地域・企業等と連携した体験活動等を通じた学び

今までの取組が教員の意識の仕方と児童生徒への声かけ次第で、そのままキャリア教育の実践になる。目的や目標を明確化して、児童生徒を送り出すことが必要である。

関連ページ　P19 「４.職場における体験活動の充実」

○ 児童生徒の学びをつなぐ

キャリア教育をすべての教育活動で行いながら、要としての特別活動でバラバラに行っている活動をつなごう。また、ふり返ったり、見通したり（将来を展望したり）する活動を学年・学校を超えて積み重ねよう。

関連ページ　P11, P12 「２.②全体計画の作成　③年間指導計画の作成」
P17 「3. 小中高の学びをつなぐ「キャリア・パスポート」」

⑥具体的な方策

県では今後、次の４つの方策により、キャリア教育を推進していく。

○ 全体計画・年間指導計画の作成

学校の教育活動全体を通して、組織的及び系統的にキャリア教育に取り組むためには、キャリア教育の全体計画・年間指導計画の作成が必要である。

子供たちの実態や地域の実情を踏まえて、キャリア教育の目標を設定し、その実現のために、教科横断的な視点で教育の内容を組織的に配列して教育課程を編成し、それを実践し、評価し、改善を図っていくことが重要である。

○「キャリア・パスポート」の活用

「学ぶことの意義を実感できる環境」の整備と、現在の学びと生涯にわたる学習とのつながりを見通すために、「児童生徒が活動を記録し蓄積する教材」、すなわち「キャリア・パスポート」を下記のとおり活用する。

①各教科等（教科・科目、総合的な学習（探究）の時間、特別活動等を広く含む）において経験してきたそれぞれのキャリア形成にとって重要な学習活動の振り返り」に、すなわち特別活動を要に「横をつなぐ」もの。

②小学校から高等学校へと系統的なキャリア教育を進める「縦をつなぐ」もの。

③生徒にとっては自己理解、教員にとっては生徒理解を深める、すなわち「自己理解につなぐ・生徒理解につなぐ」もの。